机右鈔　十

總紀

内閣文庫
和書　類
三四六七七　號
一三　冊
二〇二　函
七　架

共九

内閣文庫
番號	和	34677
冊數	13 (10)	
函號	202	30

国立公文書館 National Archives of Japan

松石抄巻十　　秋上

風　歳

さえのぼる月の光に秋風の吹くにまかせて露ぞこぼるゝ　人

あきの風ふきにし日より秋の夜の月のひかりの冴えまさりけり　定家

ことしより秋もかはらぬ山里にいかにしてかは月をみるらん

こころてわかれしよりはまた月を

よそにみてくもかゝれる秋のゆふぐれ　後成

山里のこのもかのもにたつ霧の

とほくなりゆく秋のゆふぐれ

おもひやる人もなき世の秋の月ひとり有明の月　定輔

ながめつる秋の夜すがら山の端の月をぞ待ちし　是家

日本政府図書
秘閣図書之章
編脩地誌備用典籍
和三四六七七號

芦 続古今秋 朝嵐の山は袂すゝしの河の水に流るゝ芦は霜のおくさ 太上天皇
亀山は紗羽にて

蘆寺 同秋下 紅葉はちりぬる嵐の山を見てぞ行く 同

秋庵 玉葉秋下 又たぐひ嵐の山の麓寺杉の庵に有明の月 後京

花 続千載秋下 嵐山麓は花の梢よりひとつにかゝる嶺の雪 為氏

桂里 同秋上 雲八重の嵐は山の麓にて桂の里に月ぞ澄みける 実宗

芝野 新古今秋上 嵐山雲は麓にやかゝりけん橋よりかゝる滝の白糸 [illegible]

橋 同秋下 色深き錦かさねや嵐山秋より橋の名にしあひけん 同

大井川 同冬 大井川下す筏はひまもなし嵐の山の秋の紅葉を 為家

蘆里 同冬 ちり積る嵐の山の紅葉はふる蘆の里は埋もれにけり 経家

鐘 新続古今雑下 嵐山入相の鐘によそへても雲にこもりて響きゆくなり 定家

猿 新拾遺 夕附日さすや嵐の山深みひとり嶺に猿ぞ鳴くなる 仲実

磯松 玉葉 夕暮は磯のひさしに吹きかへす嵐の末に落つる松風 基隆

萩 同 草も木も色づく秋の嵐には野辺にも散れぬ萩の下露 同

呼子 玉葉 夕ぐれは宿とも旅の嵐の呼子鳥嵐の山に鳴きつるかな 行信

躑躅 同 嵐山峰の躑躅は雲とのみ花の錦とあやなせて杜鵑なくなり 小宰相

千鳥紀 同 山里は千鳥が鳴くに嵐山紅葉の下にかゝる浪のよる 為家

杉 同 嵐山麓の杉の夕暮は杉の梢も見えぬなりけり 同

菜 同 冬さびし嵐の山の岩根には小菜摘むべくもなし 同

草庵 玉 嵐山の下庵の庭に嵐山草の庵に 光明峰寺道

浣 同 秋夜嵐の山の月清く大井の浣に氷る波 実行

浣帰 同 いつか又嵐の山に帰るべき嵐の山の下紅葉 同

はるへにいつくしあはせうつろふそのかけ
法橋に偏りて家に法師と地法し
ゆくゆくはいくよもありてこそ　為和

松房

梅霞

同　まつかせは風の松か枝しるへにあさきやかれはてぬる
同　うつりゆく物の色を何しらぬ世に松の下かけは春波也　長七

有栖川　同

義貞　千早振神のちかひのむかしにかへる有栖川松もふたゝひかけてそゝく
禎子内親王にこそ後深草院
いくら行きぬともやむことなく今はりと
行くとは今ひとぬ世のなか行くなかるこのかくて
なる松の影れて常盤の中行くなかれ　義貞卿　[illegible]

花
梅花
松霞
羊花
山桜
花
駒
芸

有栖川　有栖川おなし流れのぬきさしのかけてこそしれ　中院大納言
天仁　花は花そ色にまさりて[illegible]有栖川　定家
同　月は[illegible]有栖川にまかせて[illegible]　為氏
同　花にこそいはなき松の有栖川の松風の湊のせら　躬恒
義貞　たかき[illegible]松の花とそ見ゆる松の群　作成

花の井　同

[illegible]むらさきの花かる井に[illegible]　兼明親王
同　花かる井[illegible]　為実
天仁　駒[illegible]花かる井[illegible]　野宮左大臣
同　[illegible]花かる井[illegible]　中務卿
雅経　花かる井[illegible]水に氷に[illegible]

明日香山　同

紅葉　新古今　もみぢちる山は明日香の色なれや時雨にもみぢ此　雅経

蘇里　後拾遺　明日香山麓の里の手枕に移ろふ花もかはらざりけり　家隆

河花　続古今　明日香川さくら散るらし見るからに流れ?ける花ぞ浮きける　為家

山路　新後撰　明日香山行き来の道の夕暮に立ちのぼる雲の峰ぞ見えける　資明

峯松　月清　木末まで明日香の山の峯に生ふる松の嵐ぞ吹きかはるなり　後京極摂政

雑葉　玉葉　明日香山麓の野べの篠原に吹く風の音に秋ぞ聞ゆる　慈円

梅　夫木　色も香も飛鳥の里の梅の花八千代の春を匂ふ袖かな　同

雑　同　あすか山今日も暮れぬと行く人の昔の跡を思ふなりけり　定家

花　同　明日香山桜の花ぞ咲きにけり飛鳥の川の水も匂ひて　隆祐

紅葉　同　明日香山もみぢ葉散らす秋風に吹き寄せられて河に流るる　光俊

玉椿　同　万代は明日香の山の玉椿色も変らで八千代経ぬべし　定家

子日　同　早苗とる神なびの森の明日香山の麓の森の若菜摘みけり　通光

月清　同　みよし野の明日香の山の月影は松の下葉に見えわたりけり　寂蓮

明日香里　同

花　金葉　見わたせば明日香の里の桜花春の霞に立ちぞまがへる　顕仲

日蔭草　新古今　茜さす明日香の里の日蔭草雲井に匂ふ影ぞ見えける　家隆

補　続後撰　行きかへる夜の明日香の里の風をば待つことなくて吹きかはるらん　為家

御祓　夫木　いかにせん明日香の里の夏祓ひ今日の禊ぞ思ひ出でらるる　俊成

同　明日香山蘇我の大臣の仁やゆかしき明日香の里の草の枕に　家隆

秋山

擣衣　続拾遺　秋霧の明日香の里の衣打つ声もさやかに遠ざかる夜の嵐の山風　後京極

霞 [illegible] [illegible] 中宮[illegible]

麻 [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible] [illegible]

天香久山　大和

万葉一　天の香久山のぼりたち国見をすれば国原は

煙たちたつ海原は鴎たちたつ　下略

長等 [illegible] 天のかぐ山 [illegible]　師輝

桜 同 [illegible]

松 [illegible] 天のかぐ山 [illegible]

十市の里 同 十市の里 [illegible] 天のかぐ山 [illegible]　後撰

宮 [illegible] 天のかぐ山　後京

榊 [illegible] 天のかぐ山　同

篠波 [illegible] 天のかぐ山　同

月鏡 [illegible] 天のかぐ山　宗尊親王

鉾杉 [illegible] 天のかぐ山　[illegible]

呼子鳥 [illegible] 天のかぐ山　定為

花 [illegible] 天のかぐ山　[illegible]

郭公 同 [illegible] 天のかぐ山　[illegible]

豊岡姫 同 天のかぐ山 [illegible]　[illegible]

梯立 同 [illegible] 天のかぐ山　[illegible]

初霜 同 [illegible] 天のかぐ山　[illegible]

滝鼻 同
かゝる山の滝の氷もとけぬらん吉野の山に春はきにけり 好忠

宮滝 河 同

古今 冬
み吉野の山の白雪ふみわけて入にし人のおとつれもせぬ 忠岑

白峯 新古今 春上
み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春はきにけり 人麿

三船嶽 続古今 雑中
いつの川[illegible]み吉野の三船の嶽に雲そかゝれる 家隆

吉野 新古今 春下
み吉野の山の[illegible]や[illegible]けくらし 家衡

月川 続古今 秋上
み吉野の山の[illegible]て月[illegible]月 紀淑氏

象 続古今 雑上
み吉野の山のかすみ[illegible]吉野[illegible] 家隆

同 冬
風さむみ[illegible]吉野の山の[illegible] 定家

椋橋 万葉
椋橋の山の[illegible]桜[illegible]風 中務卿親王

布留山 同
み吉野の川[illegible] よみ人しらず

宮滝 同
吉野なる[illegible]吉野の山の[illegible] 季通

吉野嶽 同
風吹けは[illegible]吉野の嶽[illegible] 後京極

杣 同
[illegible]の吉野の杣[illegible] 後法性寺

飛鳥 河 里 郡 同

河瀬 万葉十二
[illegible]飛鳥川の[illegible]の瀬[illegible] 人麿

奈良 万十
ふるさとの飛鳥はあれと[illegible] 坂上郎女

玉藻 万七
飛鳥川瀬々の玉藻のうちなひき心は妹によりにけるかも よみ人しらず

万葉十
[illegible] 兵部卿

淵瀬 古今雑下
世中は何か常なる飛鳥川きのふの淵そけふは瀬になる よみ人しらず
[illegible] 東人

同
飛鳥川淵にもあらぬ我宿も瀬にかはりゆく物にそありける 伊勢

紫高瀬　新拾遺 春下　花の色に河[illegible]高瀬[illegible]舟[illegible]　人麿

遊君　新勅撰 雑上　花の色をうつす河[illegible]の[illegible]　よみ人

萩枝　後拾遺 秋　花のさく河瀬の波に萩[illegible]して[illegible]年[illegible]　定家

好婦人　同 雑　たなばたの袖[illegible]花の[illegible]　黒主

葛　新後撰 恋三　花の[illegible]河[illegible]の葛[illegible]　[illegible]

香　玉葉 冬　[illegible]の[illegible]河[illegible]　[illegible]

橋　続後撰 春下　花の[illegible]の[illegible]橋[illegible]　[illegible]

袖衣　同 春下　花の[illegible]河[illegible]袖[illegible]文[illegible]　[illegible]

寺鐘　同 雑中　[illegible]花の[illegible]　[illegible]

七瀬流　新葉 夏　花の[illegible]河[illegible]七瀬の流[illegible]　[illegible]

柳　新拾遺 雑　花の[illegible]婦人[illegible]柳の[illegible]や　為定

高瀬雲　新後拾遺 春上　花の色[illegible]河[illegible]の白雲[illegible]　[illegible]

鏡　新後撰 春下　うき世とて[illegible]　為家

交藝　家集　花の[illegible]　[illegible]

何鳥　月情　[illegible]花の[illegible]　[illegible]

橘　続後撰 夏　花の[illegible]橘[illegible]　定家

紅花　同　花の色[illegible]白[illegible]　同

岩橋　玉葉 春　花の[illegible]岩橋[illegible]月[illegible]　[illegible]

鳥　夫木　[illegible]花の[illegible]　[illegible]

松葉　同　[illegible]花の[illegible]松[illegible]　[illegible]

蹴鞠　同　花の[illegible]　[illegible]

卯花　同　卯の花[illegible]　[illegible]

橘　同　おりしもあれ[illegible]片岡の[illegible]橘　頼輔

花橘　同　花橘[illegible]此里の[illegible]　清輔朝臣

笹原　同　[illegible]風[illegible]笹の原に[illegible]　良経

鶯　同　[illegible]鶯の[illegible]　為家

寺法施　同　[illegible]朝日の[illegible]寺の法施　知家

朝原　同

霧　夫木秋下　[illegible]片岡の朝の原[illegible]　家隆

菜　拾遺雑上　明日からは若菜つまんと片岡の朝の原は今日ぞ焼くめる　人麿

雉子　拾遺雑春　[illegible]片岡の朝の原の雉子鳴也　長能

霞　夫木春上　霞[illegible]朝の原の[illegible]一枚[illegible]　源仲敏

麻　新千載秋上　[illegible]片岡の朝の原[illegible]　為世

薄　新千載秋上　[illegible]朝の原の花薄[illegible]　源為氏

草　新勅撰雑下　[illegible]朝の原の[illegible]　[illegible]大臣

鶯　題しらず　我世[illegible]朝の原[illegible]　俊成

雉子　夫木　雉子鳴朝の原[illegible]　資宗

花　同　[illegible]片岡の朝の原の花の[illegible]　為家

駒　同　[illegible]朝の原[illegible]　家隆

鷂　同　[illegible]朝の原に一[illegible]　道家

菜　同　[illegible]朝の原の[illegible]　為家

萩　同　[illegible]朝の原の萩の[illegible]　為世

鶉　同　浅茅生[illegible]朝の原[illegible]鶉[illegible]　兼昌

鴫萩　同　[illegible]萩の[illegible]朝の原[illegible]　[illegible]

曙夜 同 宮河の朝風寒み秋の夜の一花とたつ宮の夜寒し 定家

阿多大野 同

葛 万葉十 真葛原いつくはあれと大和の阿多の大野の萩の花さく 人丸

松虫 続千載秋中 とくあけていつくはあれと大和の真葛か原に松虫の聲 後鳥羽院

萩 新古今秋上 白露のいつくはあれと大和の萩か露ちる野への秋風 定家

鶉 新後撰秋上 鶉なくいつくはあれと大和の真葛か原の露の夕暮 雅経

雲居 玉葉 いつくはあれと大和の雲ゐの空に月そさやけき 隆信

落葉 同 家もなくいつくはあれと大和の落葉に秋のくらき夜の空 信成

葛葉 同 風吹けはいつくはあれと大和の真葛か原の露の夕くれ 為家

萱 同 秋風のいつくはあれと大和の萱か下葉も露ふかくして 家隆

秋篠里 同

河内 新古今 高安やみ山の雲に伊駒山たつ雲のゐる高安の里 家隆

伊駒 玉葉秋下 朝日影伊駒の嶺にいつる月高安の里の夕暮の空 家隆

霧 玉葉 たつ霧に伊駒の嶺もかくれつゝ高安の里は夕暮の空 実氏

秋衣 太平 高安や伊駒の山の夕霧に秋の衣も露けかりけり 為家

薄 同 風吹けは伊駒の山の高安の里に秋そ来にける 為家女

竹 同 初霜の伊駒の山の秋風に竹の葉のそよく夕暮の空 家隆

杜 同 初霜の伊駒の山の秋風に杜の紅葉の色まさりけり

青簾 同

芦河 夫木 芦河の流れてはやき白波の花ちるさとの春のかはせ 為家

花 新後拾遺春下 芦河の岸の桜の花の波よる花に春そくれゆく 為家

芦辺 新拾遺雑中 雲ゐるる芦辺の波の芦ちかく夕日そかゝる 教長

佐保 夫木 佐保姫の霞の衣の春の色に佐保の河原の花そにほへる 公実

河霧　同　[illegible]　順徳院

河霧　同　[illegible]　通俊

松　同　[illegible]　後鳥羽院

河月　同　[illegible]　範宗

河霧　新続　[illegible]　中文

天川　河辺

[illegible]　業平

新古今　[illegible]　貫之

天の川とほくとく　[illegible]

新古今　[illegible]天の河原[illegible]　[illegible]

後拾遺　天の川[illegible]文月[illegible]　敏行

雪　[illegible]　天の川[illegible]　資平

七月七日[illegible]　[illegible]

新古今　織女[illegible]天の川[illegible]　法性寺入道

久方の天の河原の[illegible]　敏行

[illegible]　天の川[illegible]　忠俊

[illegible]　天の川[illegible]文月[illegible]　[illegible]

[illegible]　天の川[illegible]桃の[illegible]　[illegible]

七夕[illegible]天の川[illegible]　為相

[illegible]天の川[illegible]　宗尊

天の川[illegible]松風[illegible]　敏定

摂衣　同　[illegible]　正三位知家

菅　摂津　皆人の笠にぬふてふ有馬菅ありての後もあはんとそ思ふ　人麿

猪名笹　摂津　有馬山ゐなの笹原風ふけはいてそよ人をわすれやはする　大弐三位

有馬

湯　[illegible]　有馬の湯によりて[illegible]

[illegible]

[illegible]　資実

[illegible]

[illegible]　家隆

[illegible]　定家

有馬山　[illegible]　為家

有馬山　[illegible]　資経

有馬山　[illegible]　俊嗣

有馬山ゐなの笹原[illegible]　俊成

[illegible]　為氏

[illegible]　法印

[illegible]　中務卿

あしや　摂津

紫　花村　続後　紫の花の[illegible]村[illegible]

浦　同　紀伊国や[illegible]村[illegible]花[illegible]

奥郷　宝葉　[illegible]有馬の浦の[illegible]

芦屋　灘　沖　浦　里　摂津

呉竹　[illegible]

芦屋の[illegible]　同　芦屋の[illegible]

澳大[illegible]　新古今　[illegible]

灘　同　芦屋の[illegible]芦屋の[illegible]

沖　新勅　[illegible]芦屋の沖[illegible]

紀路遠山　[illegible]芦屋[illegible]

[illegible]　同　芦屋の[illegible]

[illegible]　新後　[illegible]芦屋の里の[illegible]

難波女　新拾　難波女の[illegible]

[illegible]衣　新後拾遺　潮風も[illegible]

橋　続古今　芦屋の[illegible]

松　[illegible]　行き[illegible]芦屋の松[illegible]

武庫　同　[illegible]

[illegible]　[illegible]芦屋の里の[illegible]

浜松 風 さそふ 山はいつ見え風にさそふ秋くる浪 芦のやの里 定家

磯山桜 夫木 芦のやのなたの塩焼いとまなみ磯山桜咲にけらしな 後京極

霧 同 しら雲を芦屋の沖の月かけて霧のはれまに風そ吹 為家

鶴 同 山のはの月の芦辺よりなくなる鶴の芦のやの里に鳴くなり 同

入江 同 芦のやの里の入江よりうき見ゆる月のてりゆく浪 同

沙山 布引の滝 同 芦のやのなたの沙のうへに見えしは布引の滝 後京極

鴨 同 湖の芦屋の沖に行舟の…… 兼道

同 夕されば松やへ松に吹風の……芦のやの里 雅経

杜若 万七 墨吉之浅沢小野之垣津幡衣尒揩著将衣日不知毛

浅沢 沼 小野 同

三水 新古 住吉の浅沢小野のかきつはたたれかはしらんいかてわかへん 若宮

花かつみ 千載 五月雨は浅沢沼の花かつみかつ見るまゝにかくれゆくかな 藤原顕仲

菜 続後撰 下もえやまたいさゝかも白雪の浅沢小野に若菜つみけん 為家

芹 新千載 いさやこら若菜つみにと根芹生ふる浅沢小野の里をたづねて 俊成

三稜草 新千載 かくれぬの浅沢沼に三稜草くる世にふる人や…… [illegible]

杜若 堀河 住吉の浅沢沼の杜若いつかは人の見えてわかれむ 顕仲

秋沙 新六 わきもこか浅沢小野の秋沙ゐるひさしくなりぬ…… 信実

菖蒲 夫木 ふかし浅沢沼のあやめ草いつか手かけん…… 俊成

住吉 浅香浦 同

万二 夕されば潮満ち来なむ住吉の浅香の浦に玉藻刈りてな

玉藻 続後撰 住吉の浅香の浦の玉藻刈る…… 行経

浅深 新千載 玉藻刈る浅香の浦の…… 為右

新後拾遺 あなめく吹く小夜しほかせ藤浪の浦のあはでの浦の松風 俊成

阿波手 浦 杜 尾張

蜑濱松 金葉 名にしおふあはでの浦の蜑の苫屋もるとしもなくあはれなりけり 源雅光

浦貝 新勅撰 我恋はいつをはてともあはでの浦のうつせ貝 後法性寺入道

藤隆大 續古今 紅のいろにいでゝあはでの浦の藤 為道

杜 新古今 時鳥なくなく人を待つほどにあはでの杜の花 式部卿

螢 夫木 いかにせむあはでの杜の螢かな 康光

芦花 月 夢にのみあはでの杜のあしの花 よみ人しらず

扉 月 ことつけよあはでの杜の扉 小侍従

霜 月 波風にあはでの浦の霜 為良

雪 月 白雪のふるとあはでの浦の松 よみ人しらず

安倍 駿河

市 万葉 焼津辺(やいつへ)にわかゆきしかは駿河なる安倍の市道にあひし児らはも 春日蔵首老

坂鶴 月 坂越えて阿倍の田面にゐる鶴のともしき君は明日さへもかも よみ人しらず

夕立 新後拾遺 ゆく人も立ちぞやすらふ坂越えの安倍の田面の夕立の雲 民部卿為明

田鶴 夫木 風寒み坂越えて行く安倍の田面にさわぐ田鶴かな 祐武

村雀 月 早苗とる安倍の田面の村雀坂越えて鳴く声ぞきこゆる 寂蓮

早苗 月 早苗とる安倍の田面にたちそめて 衣笠

安倍田 夫木 安倍の田面の畔の坂越えて 家隆

坂鶴 月 あさ鶴の月にむれゐて坂越えて 後京

足柄 山 関 相模

垂水　万葉三　とゞろきて足柄山の垂水に[illegible]　山部赤人

箱根路　同七　足柄の箱根の路の[illegible]　よみ人しらず

杉　同七　あせこが[illegible]足柄山の杉がむら[illegible]　同

あづまぢの[illegible]

もえ足柄の[illegible]

[illegible]

浮嶋原　新拾遺　足柄の関路越え行く[illegible]浮嶋が原　貞静法

[illegible]　同拾々　足柄の[illegible]越えゆく[illegible]一村[illegible]浮嶋の原　従[illegible]

東路の[illegible]

富士　続古今別　足柄の[illegible]　能[illegible]

[illegible]　同　[illegible]富士の高根[illegible]足柄の山　西[illegible]

竹下　続後撰　足柄の山の麓に[illegible]竹下道　平泰時

箱根　夫木　岩がねの[illegible]足柄の山　為家

花竹下　新古今　足柄の山の嵐の[illegible]花の宮[illegible]竹下を　為[illegible]

八重山　新後撰　[illegible]足柄の[illegible]八重山[illegible]　津守国夏

杉　折句　行人[illegible]足柄の[illegible]杉と[illegible]　行朝

[illegible]　夫木　[illegible]山の[illegible]足柄[illegible]　河内

紫[illegible]　月　新古今　[illegible]山の[illegible]秋風[illegible]　[illegible]

駒月　拾玉　[illegible]月に駒[illegible]　[illegible]

桜　長嘯　[illegible]山の[illegible]桜[illegible]　後[illegible]

花　李花　[illegible]花[illegible]足柄の山　為相

関屋　同　東路の足柄山の[illegible]関越ゆ[illegible]　[illegible]

菅

月

あしからの山にまたゆくさ夜衣行の鈴もきこゆなり　定家

居

月

旅衣日も夕くれに足柄の箱根の山に鳴雁かね　定家卿

秀句

月

関の戸も末にあひたる足柄の山　為家

松

月

関越て松の下行露にてや宿にゆふされ足柄の山　為氏

佐野舟橋

万葉

東路のさのの舟橋かけて思ふ作野の舟橋　同

東にては云ふ作野八建長年東へ下りける

足柄の麓に佐野と云所にてよみ侍る

百首中に

逢坂　関山　近江

わかれては人を別るる時よめる

古今別

逢坂の関にはほとゝきすなく　万雅

蓬原のこれをとふ山さし出ゆけは遥かなり

遠つ国よとくらは逢坂とまてこえ

行くらん

月

同 離一

かつこえて別も行か逢坂は人たのめなる名にこそ有けれ　貫之

音羽

同 恋一

音羽山音にきゝつゝ逢坂の関のこなたに年をふるかな　有原元方

同 雑下

逢坂の嵐の風は寒けれと行衛しらねは侘つゝそぬる　よみ人しらず

薄

同 恋一

我妹子に逢坂山のしのすゝき穂には出すも恋わたるかな

五味子

後撰 恋三

名にしおはゝ逢坂山のさねかつら人にしられてくるよしもかな　三条右大臣

後撰 雑一

逢坂の関に庵室をつくりて住侍けるに

行かふ人を見て

是やこの行も帰るも別ては知も知ぬも逢坂の関　蝉丸

[illegible]

走井

同 雑二

逢坂は[illegible]

[illegible]

同 雑[illegible]

[illegible]

桜 桐原 清水 望月駒

同 別

桜花の[illegible]

拾遺 別

行く人を[illegible]逢坂[illegible] 同

同

逢坂の関の岩かとふみならし山たち出る桐原の駒 高遠

拾遺 秋

逢坂の関の清水に影見えて今やひくらむ望月の駒 貫之

[illegible]

後撰 別

行末の命もしらぬ別路は今日逢坂や限なるらん [illegible]

杖

同 離別

逢坂と[illegible]杖 [illegible]

走井

同 雑

走井の[illegible]

杉村

拾遺 雑

逢坂の関の杉村[illegible]の駒 [illegible]

逢坂関

同雑上
[illegible]逢坂の関[illegible]
[illegible]
[illegible]　源[illegible]

[illegible]
逢坂の関[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]逢坂の関　[illegible]

関小川

同雑二
[illegible]逢坂の関[illegible]
[illegible]　清輔朝臣

[illegible]
[illegible]逢坂の関[illegible]関小川[illegible]
[illegible]　源俊頼

郭公

[illegible]
逢坂[illegible]
[illegible]　道信

[illegible]

木枯

同雑下
[illegible]関[illegible]
[illegible]　中納言[illegible]

[illegible]
[illegible]清水[illegible]
[illegible]

関水

同雑中
[illegible]逢坂の関水[illegible]
[illegible]　東三条院

鶯
花

新古今 春上
鶯のなけともいまたふる雪に杉の葉しろき逢坂の山　太上天皇

同 春下
逢坂や梢の花をふくからに嵐そかすむ関の杉村　宮内卿

逢坂の関のこなたもまたさえて
今はなつかし行かへるとも

旅人

新古今 別
相坂の関に嵐のはけしきに
しひてそゐたる世をすくすとて　藤原清輔

新勅撰 羇旅
相坂の関ふみならす旅人の心に花の白波　後京極摂政

駒迎
駒迎にこそ人数もまさるなれ

新古今 秋
さひしさも駒ひくころの関の戸にもれて紅葉の関の逢坂の関　信実朝臣

白川関

同 秋
逢坂も越にし人の白河の関　平兼盛

美濃中山

同 恋
ちかひても美濃の中山越えて文をまつ逢坂の関　定家

同 雑中
逢坂の関の嵐のはけしきにしひてそ居たる世をすくすとて　蝉丸

春夜

後拾遺 雑下
仁和寺法親王に聞えさせ侍りける
いかにせむ逢坂山のをとにのみ
きく人なしに関をいかゝとて　清少納言

後拾遺 秋上
おりしもや秋の夜ふけて逢坂の
関にひく駒の声もきこゆなる　後京極摂政

逢坂の関こえて旅ねせし
のちにかへりみし人の
こゝろはおなしやうにとなりて
やはらかに
[illegible]

関清水

後撰 恋
あふことを今日とやおもふ関清水逢坂の関のしらなみ　伊勢

おもひやるそのかみのこと
ふりにける関清水
おりしもこそ逢坂の関越ゆる　藤原雅経

おりひめのかはすまうらてまちまよへなり
ゐる時ハ逢坂こえておりひこなし
作りぬる

関の清水

新拾遺別
帰る人またこむ事のかたけれはせめてや逢坂の関
権中納言国房

新拾遺羈旅
逢坂を今朝越えくれは山人の海に波立つ
よミ人しらず

霧

同旅
逢坂は霧のまよひに出でてゆく駒の関
蝉丸法師

男山

同
ちかひあれはいつはりならし逢坂の関越えゆく
新将

山

同
逢坂の関の清水にかけ見えて
法師

逢坂山

新古今
嵐の山ハ逢坂山の月ハ出て逢坂山ハ見えけれ
師時

望月駒

同
逢坂の杉の村立ひきつれて望月の駒
河内

穂坂駒

同
関の戸の雁に穂坂の駒も声たてて
源

駅

同
逢坂の雲の関路をこえてけさ駅の路とほく
道方

卯花垣

同
逢坂ハ越ゆる卯花垣の関
永縁

杉山

続拾遺
逢坂の杉むらの雲にや逢坂の関
善信

桜戸

玉葉
逢坂ハ桜戸の雲ある人も花や見ゆらん
西園寺

花山

同
花山をおしむ人も逢坂の関の花
同

梅

続千載
関の戸を明けて年へて逢坂の桜の花の
慈円

山井

同
年毎に逢坂山の梅の花さくら咲くや
花園院

逢坂の山井の水とけてかけ見る雲の
為家

柳 同 つくはねの岡のわたりの水ぬるみやまもと柳いとそはへたり 登蓮法師

照射 同 照射してつくはにかへるいまよりは開てもかへらぬ人ぞかりける よみ人しらず

麻 同 麻衣わかあさ衣つくはねのしけき夏草にいる人の夏 寂蓮法師

女郎花 同 つくはねの峯の女郎花なへきさかりにこそ人もとふらめ 為相

鐘 同 つくはねや杉の下道ふみわけて声まちわふる入相の鐘 為家

蓬生 同 つくはねの峯より落る瀧ならてみそきしたつる松陰にして 土御門院

葛 同 むさしのやつくはねかけてはふ葛のうらみそすゑも根にたえて 後京極摂政

蘆垣小山 同 わかやとの夏のひかけもしけりそふ蘆垣山の末のたかさよ 順徳院

鳥羽手鼻 同 鳥のねにくもるつくはねなからなる宿の中の間もほのかにそみえ 仲正

蹴猿 同 つくはねのふもとに猿の呼ふ声にいくたひ夜半の夢をさますらん よみ人しらず

塚 同 つくはねの木の下かけにたてる塚やたれかまた住む跡ならん 寂蓮法師

唐松 同 あつまちのつくはの峯の松風に雲ゐの旅の夢はやふれて 慈鎮

鴫杖 同 鴫のふす杉の木の間にかきくらし旅ゆく人の杖をたゆむる 忠家

みなの川 同 つくはねの雲のかよひちかさなりてみなの川のせやふかくなるらん 頼信

吾妻

吾妻 同 つくはの山ゆきてみれはあつまちの人の心もかよふとそきく 入道

行山藤 同 あつまちのゆく山藤のさきにけりむかしのあとにかへるゆふくれ 権僧正公朝

花 同 吾妻やさくらか花のちりしくはむかしのあとのわすれかたみの山 前大納言為家

伊吹 同 おほつかな伊吹の風にさそはれて吾妻の空にかすむ雲かな 西行

忘貝 同 吾妻や浦の浜辺にうちよする忘貝こそ人の浦波 後京極摂政

湖海 同 湖も海も吾妻のはてにこほりして氷の風やさえわたるらん 長嘯

近江海 同

鵠 万三 礒前漕手回行者近江海八十之湊爾鵠佐波二鳴 黒人

六帖 かれ出るみなとの川のゆく末はあふみの海となりなん よみ人しらず

志賀 拾遺 みなとかぜさむく吹らしあふみのや志賀の浦わの波ぞ立なる 伊勢大輔

千鳥 続古今 近江の海夕波千鳥汝がなけば心もしのにいにしへおもほゆ 人麿

逢坂 新拾遺 逢坂をうち越えぬれば近江の海白木綿花に波立わたる よみ人しらず

網代氷魚 新後拾遺 さゞ波や近江の海の網代木によるとはなしに氷魚ぞ寄ける 近衛

粟田 六帖 君がため近江の海をこえくれば粟田の里は[illegible] 小侍従

粟田里 同 近江の海粟田の浦にうつるかげ思ひかけてや宇治をゆく[illegible] よみ人しらず

宇治 粟津 野原 杜 里 同

新拾遺 粟津野の尾花のすゑの秋風に[illegible] [illegible]

みちのくの[illegible]人と送りて 権僧都静意

粟津野にとゞめかねてぞゆく人のかりけり 摂政太政大臣

野路 新勅撰 東路の野路の露に袖ぬれて行と留と袖ぞぬれける 為家

菜 新千載 [illegible]粟津の小野にかりや[illegible] 従三位為相

逢坂 新拾遺 逢坂の関のあなたの秋の夜も[illegible]粟津の原 左京大夫顕輔

葛 新後拾遺 粟津野の葛の末葉に[illegible]有やと問ばさ露ぞこぼるゝ 順徳院

鶉 新後拾遺 我せこが行さきとほき粟津野に鶉なくなり夕暮の空 藤原俊成

鷺 続千 雲路ゆく粟津の浜の夕ぐれに[illegible]なりけり 権僧都公猷

尾花 粟多 続拾 粟津野の尾花の末に秋くれて[illegible]の[illegible] 慈鎮

雉子 新六 夕浪かげる粟津野の雉子がなく[illegible] 家隆大臣

関杜 同 夕附日関越かけて粟津なる杜の梢に月をまつかな 正三位家隆

糸桜 夫木 古への粟津の原の桜花[illegible]やくや匂ひ [illegible]

花鐘　同　粟津野や寺の鐘に[illegible]花は[illegible]人[illegible]　為桐

浮沼　同　粟津野の浮沼の沼に蛙[illegible]　[illegible]

萩　同　[illegible]粟津野の小萩[illegible]　[illegible]

萬世　同　粟津野に[illegible]萬世[illegible]　長房

薄　同　粟津野の[illegible]招く[illegible]人　為家

荳蔓　同　粟津野の[illegible]　同

折紅　同　[illegible]粟津の原に[illegible]　為氏

鶉　同　[illegible]粟津野の鶉[illegible]　[illegible]

鷺　同　[illegible]粟津の杜[illegible]　[illegible]

駒　同　[illegible]粟津野の[illegible]駒[illegible]也　[illegible]

粟津里　同　[illegible]粟津の里[illegible]　為家

麻　[illegible]　粟津野[illegible]麻[illegible]　[illegible]

砧　[illegible]　粟津野の[illegible]砧[illegible]　[illegible]

浅間山　嶽　信濃

[illegible]　[illegible]浅間[illegible]　[illegible]

[illegible]　信濃なる浅間の[illegible]煙[illegible]　[illegible]

里　[illegible]　信濃なる浅間の[illegible]煙[illegible]　[illegible]

同　[illegible]浅間の夕煙[illegible]　業平

[illegible]　[illegible]浅間の煙[illegible]　[illegible]

虫　[illegible]　[illegible]浅間の[illegible]　[illegible]

稲　[illegible]　[illegible]浅間の[illegible]花　[illegible]

[illegible]　同　[illegible]浅間の嶽の[illegible]　[illegible]

有明山　同

月　松　旅　花　扉　紅葉　時鳥　并詠人

続古今　行末の空もくもらし有明の山よりいつる月のしるへに　後鳥羽院

夫木　夏深き岩ねの松の夕風に秋をまつなる有明の山　為家

同　松かねの月はしくれて又花の夕の有明の山　同

月清　花のちる三よし野の雲に霧はれて月影きよき有明の山　後京極摂政

夫木　おのつから妻よふ鹿の声はかりとやさきしかの声　寂蓮

同　照月の紅葉の色に露そふる旅の空ものかなしき有明の山　定家

同　時鳥月まつ夜はの空なから有明の山にやすらふ声をきく　後鳥羽院

安積山　沼　　法眼

新古今　わきもこか山のけふりもたちぬらん安積の沼の花かつみかな　長秀

同　みちのくのあさかの沼の花かつみかつ見る人に恋やわたらん　よみ人しらす

菖蒲

古今六帖　あやめ草ひく手もたゆく長き根のいかてあさかの沼に生けん　藤原孝善

世とゝもにつれなき人を恨みてそあさかの

山を越行らんなかなかむかしをそ思ふ

行らくも又行けり

新勅撰　古郷と空にゆきかふ山のはに月を待らむあさかの山　基俊

後拾遺　みちのくのあさかの沼の花かつみかつ見る人に恋やわたらん　為氏

雲　霞谷　桜　躑躅　鴫　紅葉

続古今　あさか山霞の谷のうちはれてあかつきの空に雲そかゝれる　よみ人しらす

夫木　あさか山かけさへ見ゆる山の桜花霞にあまりて咲る比かな　慈忍

同　躑躅あさかの沼に咲そめて岩の間に影をうつしつゝ　俊成

同　草枯のあさかの沼の朝風に秋さりの沼の鴫の羽風かな　よみ人しらす

同　いかにしてあさかの山の紅葉ゝをも誰にか見せんかへりなん　孝信

鴫 同 花のつまと何ぞと鳴る[illegible] 慈鎮和尚

安達 原野 同

極楽 [illegible]の安達の[illegible] [illegible]

関 [illegible]安達の原の[illegible] [illegible]

和泉 [illegible] [illegible]

明石 [illegible]の安達[illegible] [illegible]

芹 [illegible] [illegible]

菱駒 同 安達[illegible] [illegible]

白尾鷺 同 [illegible]の白尾の[illegible]安達[illegible] [illegible]

苧麻 同 安達野[illegible] [illegible]

武蔵 同 [illegible]の原[illegible]武蔵の松 [illegible]

雉子 同 [illegible]安達の[illegible] [illegible]の世 [illegible]

雲 [illegible] 安達[illegible] [illegible] [illegible]

有乳

雪月 [illegible] [illegible]

高根 [illegible] [illegible]

越路 [illegible] [illegible]

大田野 露　新拾遺　大田野や中よりたち山に…　人麿

霞　玉葉　たちのぼるたち山の霞… 　前大納言為家

大田野 神　新後拾遺　たち山に大田野の…　為氏

雪　新続古今　雪のうち有乳山こえて…　雅経

深雪　同　たち山のみゆきふりしくかみの…　仲実

越路人　新拾遺　初雪の降りしよりたち山越の旅人…　源兼昌

岩　夫木　夕日さす…たち山に…越の旅人　二宮

谷鶯　夫木　たち山の谷の鶯…　家隆

雲　同　たち山の…雲の…　同

嵐　夫木　宮の…たち山の嵐の…　読人しらず

鹿　同　…たち山の夕暮に…鹿のなくらん　同

雪車　夫木　…たち山の…越路の…　顕昭

松原　同　たち山の松の…　読人しらず

雲　同　たち山の雲の…松原　為家

梅　夫木　たち山の…梅の…　俊頼

梅　新千載　たち山の…梅…　俊成卿女

有磯　海　浦　浜　越中

海谷　夏　…有磯の…　為尹

越海　同　…越の海の…有磯…　同

奈呉島　同　有磯の浦の…奈呉の島…　読人しらず

浜千鳥　古今　…有磯海の浜の真砂…　同

鵆　新拾遺　…有磯の…千鳥…　同

千鳥　拾遺恋一　かくてのみありその浦の浜千鳥よそになきつゝ恋やわたらん　同

貝　新勅撰三　拾ふなる磯のうつせ貝の身をかへても思ひなるかな　読人不知

鳥　夫木　吹風の磯の波路をよそに見て高き家よりうち出て見れば　後京極

天橋立　丹後

倉橋山　万七 読人不知　橋立の倉橋山に立る白雲見まくほしさにわか
ゆく道のうちよせくる雲　人麿

松の葉　千載雑下　思ふ事今はなきかな松の葉のふかき緑を天の橋立　前大納言

大江山生野　金葉雑上　大江山いくのゝ道の遠ければまだふみもみず天の橋立　小式部内侍

白浪　千載雑二　松がねに立よる波のしら浪の与謝の海天の橋立かけてみえけり　赤染衛門

倉橋川　同　橋立の倉橋川の石の橋はも男盛に我渡りてし石の橋はも　柿本人麿

吹居　同　橋立や与謝の浦はの小夜千鳥なきて波まの月を見るかな　前中納言

入海　玉葉雑　橋立や松吹こゆる浦風に入海かけて月のかつらや　太宰大弐

松　新後拾遺　沖つ風吹たえにけり松枝の今は浦はの天の橋立　為家

舟　夫木　舟とめて年をへにける松原に波をかけたる天の橋立　紀俊

若和布　同　若和布刈る与謝のあま人いかにして袖ひちぬらん天の橋立　家隆

橋　同　橋立やくらはし山の夕霞に月の出しほそ天の橋立　兼昌

鴈　夫木　鴈鳴て与謝の浦はの秋霧にうち渡しても渡る橋立　為家

千鳥　同　千鳥鳴く与謝の浦はの夕浪に渡るや天の橋立　長実

海松　同　刈てほす海松の浦はの海士人は世をわたる天の橋立　家衡

見浜　同　与謝の海の内外の浜にうらさびし世をうき渡る天の橋立　好忠

入日浦　同　砂子にも今や入日の浦に天の橋立　秋季

与謝大山　夫木　与謝の海や橋立や松原越の与謝の大山　光俊

いなみ野

松原

明石 浦 迫門 潟 里 湊 嶋

万葉七 いな[illegible] 人丸

同五 天[illegible] [illegible]

[illegible] みく[illegible] 同

拾遺雑上 [illegible]明石の松原[illegible] [illegible]

[illegible]明石[illegible]

月の[illegible]中宮[illegible]

なりにけり

[illegible] [illegible]の月[illegible] [illegible]

同 [illegible]

[illegible] [illegible]

[illegible] 同

[illegible] [illegible]

[illegible] 人麿

[illegible]明石[illegible]

[illegible]

明石潟[illegible]

明石潟[illegible]

[illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

世中はかくしつゝはらふ法の声さへ
とくとくたえぬ命とはなし

鵆

秋旅
とまりする明石の浦の月影を待つ朝霧に夜ぞ明けにける　季氏

羇旅
明石潟汐風寒き夕波に千鳥鳴くなり友や恋しき　後京極

同
浦風に浜松が枝も秋たけて明石の月の影ぞ冴えける　雅経

月
月影の明石の浦にやどりして波の上にぞ秋を知りける　道家

同
明石潟あはれと見るや夜の月そよぐ荻の葉に秋風ぞ吹く　後鳥羽院

登蓮集
桂
梢ふく風や秋をもしらすらん明石の月の影ぞさやけき　家隆

羇旅
香
浪の上の明石の浦にさすらへて旅寝の月を見るぞ悲しき　基俊

冬
房
風さゆる明石の浦の浜千鳥なく音に夢の覚めてけるかな　業平

同
驛
明石潟夜半にうつろふ月影に浦の苫屋ぞ秋をしりける　信実

磯松
同
夜舟漕ぐ明石の浦の松風にかよふ千鳥の声ぞ悲しき　按察使

同
岩屋
夏の夜の明石の浦の月影に旅寝の夢も松風ぞ吹く　按察使

同
藻塩
月をのみ見てや過ぎなん明石潟浦の浜辺に舟とめてけん　行家

同
星
明石潟藻塩の煙たなびきて月も霞める浦の旅人　後京極院

同
下向妻
浦人の袖もしほるゝ明石潟秋の夜長の月を見るかな　真義

同
枝
明石潟浦風寒く波よせて千鳥鳴くなり夜や更けぬらん　為家

同
不知
藻塩焼く明石の浦の夕煙かすみて見ゆる秋の浦かな　八雲

同
須磨
旅寝する明石の浦の浜風に夜半の千鳥の声ぞ悲しき　為相

同
生田杜
かくしつゝ月の明石の浦風に明石の浦を秋のしほ風　為定

同
所々
さ夜ふけて浜の苫屋の浦風に千鳥鳴くなり秋の明石に　範兼

同
情深く明石の浦の波よせて秋の夜すがら月を見る人　実清

淡路海 島 付 鳴門　淡路

松帆浦　万六　淡路島松帆の浦乃朝なきに玉藻かりつゝ　よみ人
玉藻刈　夕なきに藻塩やきつゝ海人乙女　夫木
藻塩焼　同
天乙女　淡路島よりも見えし天乙女かさしの花の袖やふるらん　同
千鳥　金葉冬　淡路島かよふ千鳥のなく声にいく夜ねさめぬ須磨の関守　源兼昌
阿波渡　新古雑上　淡路にてあはとはるかに見し月の近き今夜は所からかも　躬恒
遥遠　新勅雑中　淡路島あはれはかなき夜半の月なかめて遠く行ものを　前関白
鴈　新古雑中　雁かねの汐干の浦を過行は淡路島山よそに見えつゝ　よみ人
入日　続後拾　浦人の入日をかへす淡路島山　家隆
絵島　同　淡路島山のはるかに見し絵島かな　前内大臣
藤代　拾雑中　藤代のみ坂の松は夕日にて淡路島山　前大納言

鳴門　新千五雑　淡路島迫門の汐干のゆくやそのなかめよかりし海人　よみ人
絵台　同雑上　明石より淡路をかけて詠むれは月の浦ちかき淡路島山　清輔
茶　新後拾雑下　吹よくる浦の月かけ波ちらし淡路島山　前参議
大嶋　夫木川　大嶋や淡路の迫門の遠き浦のかすみに行帆かな　近房
絵嶋　同　淡路島絵島の浦の秋の月淡路島山　雅孝
淡路　金葉　藤江の浦の月のさやけさは淡路島山　基俊
淡路浦　新六　淡路島鳴門の浦の夕波にあはれ汐干の　知家
廣田　夫木雑中　広田より淡路の嶋の浦の汐　為相
縁橋　夫木　淡路島迫門の浦の汐の　忠盛
鳴門　同　淡路島汐干の沖は又見えて　定家
梶音　同　淡路島汐干の梶の音　慈鎮

和田　同
[illegible]和田の[illegible]淡路島[illegible]　尹明

秋沙　同
淡路潟松吹風の[illegible]　後鳥羽院

鴒　同
[illegible]淡路[illegible]　為家

あはの迫門　同
あはの迫門の汐干[illegible]淡路島山　為定

雁　夏
淡路島[illegible]雁の[illegible]　為家

鯛釣　千載
明石潟鯛釣[illegible]淡路島[illegible]　俊頼

浮可寄　玉葉
淡路島[illegible]　西行

那古　同
[illegible]　文屋康秀

浅野　淡路

滝　葉　後拾遺
[illegible]滝[illegible]　読人不知

雛子　新後撰
[illegible]　為氏

[illegible]人　[illegible]
[illegible]滝の[illegible]　[illegible]

化野　[illegible]
[illegible]人や[illegible]　[illegible]

[illegible]　千載
[illegible]　[illegible]

出　[illegible]
[illegible]化野[illegible]　仁和寺

遠　[illegible]
化野の[illegible]　後頼

玉門　[illegible]
化野の[illegible]　定家

菅　[illegible]
[illegible]松[illegible]　[illegible]

松　[illegible]
化野[illegible]　後頼

花　同
[illegible]　[illegible]

鳶　同
[illegible]

蒋書名日　化野武蔵の新号を聞て元来しらぬ事也　三寿庵

薄　日　化野武蔵殿次第に化物と見えし而女郎花也　云実

慈　日　山の奥に武蔵野の雲の尽る所を見ん　非文

語　日　彦八和上様かくいはれし武蔵野の野の花　茶道人

国立公文書館
National Archives of Japan